

平成 17 年 度

環境局予算要求方針

- 目 次 -

1 平成 17 年度 環境局予算要求総括表	1
【一般会計】	
【特別会計】	
2 平成 17 年度予算要求にあたっての基本的考え方	2
3 予算要求の重点事項	
(1) 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ	4
(2) 世界に誇れる環境の街さっぽろ	4
(3) その他の重点事業	13
4 事務事業の総点検	
(1) 事務事業の見直し	14
(2) 受益者負担	15
(3) 団体補助金	15

1 平成17年度 環境局予算要求総括表

【一般会計】

(単位:百万円)

区 分	平成16年度 予 算 額 (A)	平成17年度 要 求 額 (B)	増 減 額 (B) - (A)	増減率 (B-A) / A
環境計画部	157	186	29	18.6%
	(111)	(136)	(25)	(22.5%)
環境都市推進部	2,240	1,662	578	25.8%
	(515)	(332)	(183)	(35.5%)
清掃事業部	14,111	14,259	148	1.0%
	(7,754)	(6,520)	(1,233)	(15.9%)
ごみ処理費	13,335	13,526	191	1.4%
	(7,140)	(5,965)	(1,174)	(16.4%)
し尿処理費	776	733	43	5.6%
	(614)	(555)	(59)	(9.7%)
緑化推進部	15,417	11,674	3,743	24.3%
	(6,580)	(5,873)	(707)	(10.7%)
公園緑地管理費	3,864	3,820	43	1.1%
	(3,717)	(3,718)	(1)	(0.0%)
公園緑地整備費	11,553	7,854	3,699	32.0%
	(2,863)	(2,155)	(708)	(24.7%)
円山動物園	719	809	90	12.5%
	(344)	(384)	(39)	(11.5%)
合 計	32,644	28,590	4,054	12.4%
	(15,304)	(13,245)	(2,059)	(13.6%)

1 派遣職員にかかる人件費は含まず

2 ()内は一般財源

3 本表は百万円単位のため、増減額及び増減率が一致しない場合がある

【特別会計】

駐車場会計

(単位:百万円)

区 分		平成 16 年度 予 算 額 (A)	平成 17 年度 要 求 額 (B)	増 減 額 (B) - (A)	増減率 (B / A)
歳 入	使 用 料	84,000	71,663	12,337	14.7%
	繰 入 金	32,000	44,337	12,337	38.6%
	計	116,000	116,000	0	0.0%
歳 出	円山公園駐車場管 理費	116,000	116,000	0	0.0%

2 平成 17 年度予算要求にあたっての基本的考え方

本市は、環境への負荷が少ない持続的に発展することが可能な都市を構築するため、環境基本計画に基づき「地球温暖化の防止」をはじめとする各種施策に取り組んでまいりましたが、今後は、より一層市民の皆さんや事業者などと協力して効果的で重点的な施策に取り組んでいく必要があります。

こうしたことから、環境局では、「さっぽろ元気ビジョン」の基本目標の一つであります「世界に誇れる環境の街さっぽろ」の実現に向けて「水とみどりのうるおいと安らぎのある街の実現」と「地球環境問題への対応と循環型社会の構築」を柱に据え、事業の優先付け・重点化を図り、次のとおり予算要求を行うこととしております。

なお、環境省においても、平成 17 年度予算概算要求として、CO₂ など

温室効果ガスを 1990 年比 6 %削減するとした京都議定書の目標達成に向けた「脱温暖化社会の構築」とゴミゼロ社会の実現を目指した「循環型社会の構築」に向けた取り組みを充実させることとしております。

施策の柱

1 みどりの保全・育成とボリュームアップ

札幌の大きな魅力となっている「ゆたかなみどり」を増やすため、市民の皆さんや事業者などと協力して「みどりの保全・育成」を進めてまいります。

街のみどりのボリュームアップを図ることで、みどりを基調とした、うるおいのある美しく風格ある街並みをつくりあげていきます。

2 水辺の保全・創出

人間活動による負荷を少なくし、多様な生態系に配慮しながら、良好な水環境の維持・回復を図ってまいります。

水辺の保全やせせらぎの回復などを通じて、みどりゆたかで清らかな水辺を創出します。

3 地球温暖化の防止

地球温暖化の防止に向けて、市民・事業者・行政が一体となってCO₂排出量の削減を進めるため、環境問題の深刻さについて市民の理解を深めると同時に、総合的な事業展開により市民の日常生活の中に環境行動のムーブメントを起こします。

本市自らが率先してエネルギーの有効利用をはじめとする環境行動を推進し、その成果を市民の皆さんや事業者などへ波及させる取り組みを進めます。

4 ごみの発生抑制と適正処理

大量生産・大量消費・大量廃棄を基調とした「ワンウェイ型」社会から循環型社会への転換を図るために、企業の事業活動や市民の皆さんの日常におけるごみの発生抑制、再利用、リサイクルを推進します。

特に、家庭系生ごみ減量対策に積極的に取り組みます。

環境に配慮したごみ処理を徹底します。

5 種の保存の総合的推進

絶滅が危惧される野生動物の種の保存の充実・強化を図ります。

種の保存事業についての理解を深めるため、教育普及事業に取り組みます。

3 予算要求の重点事項

(1) 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ

1 地域での高齢者・障がい者の自立支援の促進

348百万円(380百万円)

注:()内は16年度予算額

・福祉のまちづくり公園整備事業(緑化推進部)

348百万円【配分、レベルアップ】

「福祉のまちづくり条例」に基づき、既設公園を高齢者・障がい者などが利用しやすい構造に改修する。

(2) 世界に誇れる環境の街さっぽろ

札幌の大きな魅力となっているゆたかなみどりを30%増やすことや、清らかな水辺の創出、街のみどりのボリュームアップを図るとともに、地球温暖化防止に向けて、CO₂の排出量を10%削減することなどを目指します。さらに、本市自らが率先してエネルギーの有効利用をはじめとする環境行動を推進し、市民・事業者などへ波及させる取り組みを進めます。

また、循環型社会の構築を図るため、企業の事業活動や市民の日常におけるごみ（特に、家庭系生ごみ）の発生抑制、再利用、リサイクルを推進するとともに、環境に配慮したごみ処理を徹底します。

- (1) 環境基本計画推進事業（環境計画部） 5百万円【配分、新規】
改定後の環境基本計画の推進方を協議する「(仮称)環境基本計画推進会議」の設置・運営
- (2) 札幌・環境力・UP事業（環境計画部） 6百万円【新まち等、レベルアップ】
全市的な環境保全行動の喚起・促進・持続に向けたキャンペーン・イベント等を実施する。

1 水とみどりのうるおいと安らぎのある街の実現

7,512百万円(11,191百万円)

注:()内は16年度予算額

水辺の保全・創出

5百万円

- ア 水環境計画推進事業（環境都市推進部） 5百万円【新まち等、レベルアップ】
水環境保全に関する地域住民の理解促進、活動の活発化を図るための支援を行うとともに、地下水ヒ素の汚染実態解明調査を行う。

みどりのボリュームアップ

7,020百万円

- ア 公園造成（緑化推進部） 2,090百万円【配分、レベルアップ】
「みどりの30%増を目指す」の重点政策実現の一助として、緑豊かな公園の整備を行う。39箇所32.2haを造成する。
- イ 丘珠空港緑地造成 176百万円【新まち等、新規】
丘珠空港が道内航空網の拠点空港としての機能を十分に発揮できるよう、空港周辺の環境整備(3.0ha)を行う。
- ウ 国営公園整備費等負担金（緑化推進部） 505百万円【配分、レベルアップ】
国営滝野すずらん丘陵公園の整備費、維持管理費を負担する。
- エ 個性あふれる公園整備（緑化推進部） 521百万円【配分、レベルアップ】
開設後20年以上経過した公園を対象に、地域の特性にマッチした個性的な公園として再生する。

- オ 既設公園整備（緑化推進部） 210 百万円【配分、レベルアップ】
市民の日常利用に対応した既設公園の維持改修等を行う。
- カ 公園用地取得（緑化推進部） 2,522 百万円【新まち等、新規】
「みどりの 30%増を目指す」の重点政策実現の一助として、緑豊かな公園の整備をするための用地取得を行う。14 箇所 9.1ha を取得する。（新まち新規事業「東雁来公園用地取得」3.3ha 990 百万円を含む。）
- キ 丘珠空港緑地用地取得（緑化推進部） 616 百万円【新まち等、レベルアップ】
丘珠空港が道内航空網の拠点空港としての機能を十分に発揮できるよう、空港周辺環境整備のための用地（0.9ha）を取得する。
- ク 道路緑化推進事業（緑化推進部） 350 百万円【新まち等、レベルアップ】
質の高い道路景観の創出を図るため街路樹・緑地帯の保護・育成を行い緑のボリュームアップを目指す。
- ケ 公共施設緑化推進事業（緑化推進部） 20 百万円【新まち等、レベルアップ】
公共施設の緑化基準を制定し、緑化を重点的に進め、民間施設の緑化を誘導し、良好な都市環境の創出を図る。
- コ 民有地緑化推進事業（緑化推進部） 10 百万円【新まち等、レベルアップ】
民有地の緑化を推進するために、屋上緑化技術の検討を進め、普及 PR に取り組む。

みどりの保全・育成

466 百万円

- ア 緑地保全地区取得整備（緑化推進部） 300 百万円【配分、レベルアップ】
緑地保全地区¹として指定した土地のうち買い入れ申し出があったものを取得する。
- イ 都市林等整備（緑化推進部） 4 百万円【配分、レベルアップ】
良好な樹林地の保全と市民へのレクリエーションの場の提供を目的に、市民の森や自然歩道を整備する。
- ウ 都市環境緑地取得整備（緑化推進部） 160 百万円【配分、レベルアップ】
良好な都市生活環境を維持していく上で重要な樹林地を取得し、保全と活用のために必要な整備を行う。

¹緑地保全地区： 都市の無秩序な拡大の防止に資する緑地、都市の歴史・文化的価値を有する緑地、生態系に配慮したまちづくりのための動植物の生息、生育地となる緑地等の保全を図ることを目的とする。緑地保全地区内においては、建築物の建築、宅地の造成、木材の伐採など緑地の保全上影響を及ぼす恐れのある行為は許可を要する。

エ 風致地区指定計画調査（緑化推進部） 2百万円【配分、レベルアップ】

市街地に残る緑豊かな環境を保全するため、風致地区²の新規指定候補地を調査する。

市民が主体となって、公園等を管理・運営し、緑を守り育てることを目的に、公園ボランティア登録制度の確立や森林活動の推進等を図る。

水やみどりを楽しむ心の醸成（市民によるみどりづくり活動支援）

21百万円

ア 市民参加による都市緑化推進事業（緑化推進部）

2百万円【配分、レベルアップ】

緑の協定³や緑化推進地区⁴の指定を通じて、市民による自主的な民有地の緑化活動を図る。また、「市民植樹祭」を実施し、植樹を通して緑化意識の向上と緑の増量を図る。

イ マイタウン・マイフラワープラン（緑化推進部）

2百万円【新まち等、新規】

市民と協働して花苗を育成して植樹活動を行い、緑づくりに取り組む。
また、幼稚園・小学校で、敷地内の植栽のほか家庭、地域で植栽する花苗づくりに取り組む。

ウ 都市緑化基金造成費補助金（緑化推進部）

12百万円【配分、レベルアップ】

都市緑化の普及・啓発を目的に設置され、その運営は（財）札幌市公園緑化協会が行い、基金の果実（利子）により市民への記念樹プレゼント等の緑化推進に係る各種公益事業を実施している。

（「みどりのボリュームアップ」にも該当 ア～ウ）

²風致地区：都市の風致の維持を目的に、都市計画法に基づいて指定された地区で、本市においては、自然的環境の骨格をなす山並み、丘陵、河川及び市街地に残る緑地を中心とした緑豊かな都市環境をいう。建築物の建築や宅地の造成、樹木の伐採など風致に影響を及ぼす行為について一定の規制がある。

³緑の協定：住宅敷地などの緑を増やすことについて市民の皆さんの合意を得たうえで市と協定を結んでいただき、お互いに役割分担したうえで緑を増やす活動をともに行っていく制度。市は緑化に対しての技術的なアドバイスなどいろいろな支援を行う。

⁴緑化推進地区：従前の市によるモデル地区の抽出指定から、特に、緑化の推進に関して住民の意識が高い地区を緑化推進地区として指定する。

エ 市民主体の公園等管理推進支援事業（市民がみどりを守り育てるしくみづくり）（緑化推進部） 2百万円【新まち等、新規】

（「みどりの保全・育成」にも該当）

オ プレイリーダー育成事業（緑化推進部） 3百万円【新まち等、新規】

プレイリーダー（公園ガイド）の育成と市民活動拠点の確保をする。また、公園ごとの利用ルール策定やイベントの推進などを行う。

【成果指標】

32.市民との協働による植樹本数

【目標】8,537本 11,000本 【17年度効果】+2,463本（累計11,000本）

2 地球環境問題への対応と循環型社会の構築

3,005百万円（2,589百万円）

注：（ ）内は16年度予算額

環境意識の醸成と行動の喚起

265百万円

ア CO₂削減アクションプログラム事業（25事業）（環境都市推進部）

165百万円【新まち等、新規・レベルアップ】

CO₂排出量10%削減を目指し、総合的かつ有機的な事業展開を図る。

（「行政の率先行動と市民などへの波及」にも該当）

(ア) 普及啓発事業 117百万円

【新規 16百万円】

- ・さっぽろカーフリーデー
- ・省エネラベル普及事業
- ・こども環境広場
- ・市内環境活動情報収集及び発信事業

【継続 101百万円】

- ・エコライフ10万人宣言
- ・環境モデル区事業
- ・エコドライブ研修会
- ・環境情報ツールの作成
- ・エコイベント推進事業
- ・さっぽろキャンドルナイト
- ・業種別環境保全行動マニュアル策定事業
- ・エコ行動マニュアル
- ・環境マラソン講座
- ・タウン誌マスコミ記事倍増事業
- ・市民環境提案
- ・札幌環境未来カップ
- ・インターネット企業広告事業

- (イ) 整備関連事業 35 百万円
- ・太陽光発電等融資（別途予算要求）
 - ・太陽光発電等モデル事業
 - ・E S C O 導入事業
 - ・環境マネジメントシステム構築事業
- (ウ) 市役所率先行動等事業 13 百万円
- 【新規 8 百万円】
- ・公用車燃費改善事業
- 【継続 5 百万円】
- ・公用車への環境広告掲示
 - ・グリーン配送制度導入事業
 - ・ごみ収集車天然ガス化（別途予算要求）

【成果指標】

33.市民の省エネ・省資源行動指標（省エネ・省資源を実施している市民登録者数）

【目標】 - 10 万人 【17 年度効果】 +3 万人（累計 5 万人）

イ 札幌市環境保全設備資金融資あっせん（環境計画部）

53 百万円【新まち等、レベルアップ】

融資対象者、利用者の金利負担などを見直し、今日的な環境問題に対応可能な融資あっせん制度を実施する。

ウ 総合的環境教育・学習推進事業（環境都市推進部）

2 百万円【配分、レベルアップ】

小学校の自主的なビオトープ⁵づくりに対して支援を行う。

エ 低公害車導入事業（環境都市推進部） 37 百万円【配分、レベルアップ】

公用車への低公害車導入を促進することにより、市民・事業者に対しクリーンエネルギー自動車の普及啓発を図る。

オ I S O 1 4 0 0 1 普及促進事業（環境都市推進部）

8 百万円【新まち等、レベルアップ】

札幌市環境マネジメントシステム⁶の継続的な改善と企業の認証取得の促進を図る。（「行政の率先行動と市民などへの波及」にも該当）

⁵ ビオトープ：ドイツ語で生物を Bio と場所を意味する Tope から作られた合成語で、トンボ池などある程度まとまりのある生息地などの意味として幅広く使われている。

⁶環境マネジメントシステム：組織が自主的にその活動やサービス等が環境に与える影響を低減するように配慮し、継続的に改善を続けられるようにするための「組織的な仕組み」のことをいい、環境保全に関する方針、目標、計画等を定め、これを実行、記録し、その実行状況を点検して方針等を見直す一連の手続きが定められている。

【成果指標】

36.環境マネジメントシステム等導入事業所数

【目標】75件 300件 【17年度効果】+50件(累計250件)

行政の率先行動と市民などへの波及（エネルギーの有効活用）

42百万円

ア 公共施設における省エネルギー推進・新エネルギー導入の体系的取り組み

（環境都市推進部） 4百万円【新まち等、レベルアップ】

省エネ推進、新エネ導入を新築・改築・改修の計画段階で費用対効果を検証するプロセスを確立し、導入に向けての基本方針を策定する。

イ 都市排熱有効利用基礎調査（環境都市推進部）

5百万円【新まち等、レベルアップ】

下水道や清掃工場等の都市排熱を有効に利用する手法について検討を行う。

ウ 雪の冷熱エネルギー利用基礎調査（環境都市推進部）

4百万円【新まち等、レベルアップ】

都心北融雪槽を利用した雪冷熱エネルギー利用実証運転を行い、実用化に向けた調査検討を行う。

エ 風力発電事業性評価事業（環境都市推進部）

5百万円【新まち等、レベルアップ】

本市における風力発電事業の実現可能性を評価し、事業の実施形態について検討を行う。

オ 都市再生プロジェクトエネルギーネットワーク構築調査（環境都市推進部）

24百万円【新まち等、レベルアップ】

「札幌駅・大通駅周辺」及び「北4条東6丁目周辺」地域における雪冷熱・木質系バイオマス⁷を活用した「エネルギー有効利用都市」の実現に向けた調査等を行う。

⁷木質系バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で、石油などの化石燃料を除いたもの。太陽のエネルギーを使って生物が合成したものであり、生命と太陽がある限り、枯渇しない資源である。木質系バイオマスには、建設廃材、剪定枝、間伐材などがある。

ごみの発生抑制のしくみづくり

211 百万円

ア さっぽろごみプラン 21 改定（環境計画部）

16 百万円【新まち等、レベルアップ】

「さっぽろごみプラン 21」について、札幌市廃棄物減量等推進会議に諮問し、法改正等に即して改定を行う。

イ 家庭ごみ減量化・有料化等調査（環境計画部） 20 百万円【新まち等、新規】

家庭ごみの受益者負担のあり方や水準等について、審議会で検討するための基礎調査を実施する。

ウ 家庭系生ごみ対策事業 32 百万円

(ア) 新たな生ごみリサイクル検討事業（環境計画部）

10 百万円【新まち等、新規】

家庭系生ごみの焼却によらない処理方法と収集を含めた全体システムに関する具体的な検討を行う。（「環境に配慮したごみ処理体制の確立」にも該当）

(イ) 電動生ごみ処理機購入助成事業（環境計画部、清掃事業部）

4 百万円【新まち等、新規】

家庭系生ごみ処理方法の選択に幅を持たせるため、処理機購入費の助成を行う。

(ウ) ごみ減量アクションプログラム支援事業（清掃事業部）

13 百万円【新まち等、レベルアップ】

市民・事業者・行政の三者で構成する「（仮称）ごみ減量実践活動ネットワーク」を拡大し、生ごみ・紙ごみ・容器包装の減量、リユースなどの実践活動を展開する。

(エ) 生ごみ堆肥に関する実験モデル事業（清掃事業部）

5 百万円【新まち等、新規】

家庭生ごみの地域循環リサイクルの可能性を検討するため、ごみ排出特性の異なる集合・共同・戸建各住宅地区をモデルに検証を行う。

エ 蛍光管拠点回収・リサイクル事業（清掃事業部）

30 百万円【新まち等、レベルアップ】

家庭から排出される蛍光管の分別回収・リサイクルを市民・事業者・行政の役割分担のうえで実施する。

オ リサイクル推進基金造成（清掃事業部） 100 百万円【配分、レベルアップ】

資源物（スチール缶・アルミ缶・無色びん）の売却代金等を基金に積み立て、運用益をごみ減量・リサイクルの普及啓発事業等に活用する。

カ 事業系ごみ・産業廃棄物対策事業

13 百万円

(ア) 事業系廃棄物減量マニュアル普及事業（環境計画部）

1 百万円【配分、新規】

事業系ごみの減量を図るため、減量方法について普及啓発を行う。

(イ) 事業系ごみリサイクルシステム構築事業（清掃事業部）

5 百万円【新まち等、新規】

市有施設古紙回収の取組みを促進するとともに、事業系古紙の排出量や流通実態等の調査を行う。（「環境に配慮したごみ処理体制の確立」にも該当）

(ウ) 産業廃棄物処理指導計画推進（清掃事業部）

1 百万円【新まち等、レベルアップ】

処理業者・排出業者を対象に、啓発用として産廃ガイドを配布する。

(エ) 特別管理産業廃棄物適正処理監視強化対策事業（清掃事業部）

6 百万円【配分、新規】

P C B 廃棄物等について監視体制を強化するため、保有事業者の把握と指導を行う。

環境に配慮したごみ処理体制の確立

2,487 百万円

ア 不法投棄防止対策事業（清掃事業部）

18 百万円【配分、レベルアップ】

不法投棄抑制を目的に、夜間・休日の監視・啓発パトロールを行う。

イ 清掃車両等購入（清掃事業部）

259 百万円【配分、レベルアップ】

ごみ収集車 21 台（うち、天然ガス車 8 台）、その他車両 1 台更新

ウ ごみ埋立地造成事業（清掃事業部）

1,112 百万円【新まち等、レベルアップ】

不燃ごみや焼却灰などを適正に処理するため、既存の埋立地内に新規埋立ブロックを造成する。

エ 篠路清掃工場延命化事業（清掃事業部）

458 百万円【新まち等、レベルアップ】

昭和 55 年に完成し、既に 20 年以上経過した篠路清掃工場について、老朽化・旧態化した主要設備を抜本的に再構築することにより、延命化を図る。

（「行政の率先行動と市民などへの波及」にも該当）

オ 硝酸性窒素処理施設新設事業

70 百万円【新まち等、継続】

埋立地の排水基準改正に適合させるため、硝酸性窒素処理施設を新設する。
（継続費 平成 16～17）

カ 厚別清掃工場解体

570 百万円【新まち等、継続】

厚別清掃工場廃止による解体工事（継続費 平成 15～17）

【成果指標】

34. 廃棄ごみ量（平成 10 年度対比）

【目標】1%削減 10%削減 【17 年度効果】+2%削減(累計 5.4%削減)

(3) その他

ア 環境計画部

- ・ (株)札幌エネルギー供給公社、北海道地域暖房(株)事業費貸付（環境都市推進部）

1,200 百万円

地域熱供給事業の安定化と普及促進を図るため、経営支援を行う。

イ 清掃事業部

- (ア) ごみ埋立用地取得（清掃事業部） 27 百万円【配分、レベルアップ】

北部事業予定地について環境影響予備調査を行う。

- (イ) ごみ埋立地整備 316 百万円【配分、レベルアップ】

山本処理場脱臭装置新設等

- (ウ) 清掃工場等整備 172 百万円【配分、レベルアップ】

発寒、駒岡

- (エ) 粗大ごみ破碎工場整備 113 百万円【配分、レベルアップ】

篠路、駒岡

- (オ) 清掃事務所等整備 5 百万円【配分、レベルアップ】

車両管理事務所

- (カ) 合併処理浄化槽設置費補助金 5 百万円【配分、レベルアップ】

10 基

ウ 緑化推進部

- (ア) 森林整備地域活動支援交付金 2 百万円【配分、レベルアップ】

森林所有者等が森林施業の実施に不可欠な森林の現況調査など地域における活動を確保するための支援措置を行う。

- (イ) モエレ沼公園オープニングイベント事業 3 百万円【配分、新規】

モエレ沼公園のグランドオープンを記念して、式典を行う。

エ 円山動物園

種の保存の総合的推進

324 百万円

- (ア) 円山動物園動物病院建設 149 百万円【新まち等、継続】
種の保存の中核施設として充実を図るため、動物病院の建設を行う。
- (イ) 円山動物園内排水管布設化替 27 百万円【配分、新規】
昭和 55 年以前に布設した下水道管が 20 年以上経過し、配管詰まりを起こし、汚水が溢れている状態であるため、不良部分の布設替えを行う。
- (ウ) 第 2 レストハウス建設 148 百万円【新規】
来園者が雨天や降雪時でも利用できる休憩所を新設する。

4 事務事業の総点検

(1) 事務事業の見直し

内部効率

一般事務費の節約や、効率的な執務による時間外勤務手当等の抑制

< 見直し額 196 百万円 >

施設の保守レベル・維持管理業務の契約方法の見直しや、冷暖房の抑制などによる光熱水費の見直しによる経費節減

< 見直し額 195 百万円 >

サービス水準など

市民の皆さんに影響あるもの

公園の清掃・草刈り回数等維持管理水準の見直しによる経費節減

< 見直し額 173 百万円 >

(2) 受益者負担

受益者負担項目	17年度予算額	主な改定項目
事業系ごみ処理手数料	4,974 百万円	くみ取り手数料(27 ㍻) 180 円 210 円 汚泥処分手数料(27 ㍻) 60 円 70 円 清掃手数料(20 ㍻) 90 円 100 円 埋立手数料(10 kg) 110 円 140 円 焼却手数料(10 kg) 110 円 130 円 " (資源化) 70 円 90 円
清掃事業収入	15 百万円	蒸気供給料金(t) 350 円 400 円

また、円山動物園において、利用者の利便性の向上を図るため、「年間パスポート」を導入する。
 <効果額 15 百万円>

(3) 団体補助金

廃止 1 件 減額 2 件 <見直し額 2 百万円>
 (単位；千円)

団体名	17年度予算額	見直し額
北海道サケ友の会	-	190 (廃止)
クソさっぽろ衛生推進連絡協議会	7,100	850 (減額)
札幌市花壇推進組合	9,400	1,100 (減額)